

# 千年の森便り No.265

2026.2.28

ちば千年の森をつくる会

<http://sfuku.cloudfree.jp/>

代表 福島成樹

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 2月15日（日）天候 晴れ

2月の活動日は、1年で一番寒い時期に当たりますが、今回は桜が咲く時期の気温となり、春を思わせる一日でした。

活動を始める前に、先月亡くなった会員の大原さんのご冥福をお祈りし、全員で1分間の黙祷を捧げました。

活動としては、年間の活動計画に基づき、落葉期の相対照度調査、植生保護柵の補修、危険木（支障木）の伐採、植物観察などを行い心地よい汗をかきました。

今回は、苺さんから背負いカゴいっぱいの文旦の差し入れがありました。今年は実が小さいとおっしゃっていましたが、さわやかな香りです。とても美味しかったです。ごちそうさまでした。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、片野、苺米、坂本、福島の会員7名でした。（福島）



### ○落葉期の相対照度調査

森林内の光環境を把握するため、相対照度の調査を行っています。冬の相対照度は、植物の成長にはあまり関与しませんが、スミレなど春先に林床に出てくる植物には重要です。また、夏との明るさの違いを把握するために実施しています。

相対照度は、何も障害物がない場所の明るさに対する森林内の明るさで表現します。明るさ（照度）は雲の動きによって刻々と変化するため、相対照度を測定するためには森林内と外で照度計を使って同時に測定する必要があります。そこで、調査には照度計4台とトランシーバ4台（セブン・イレブン記念財団の助成金で購入）を使用して森林内と外で連絡を取りながら同時に測定を行いました。

なお、相対照度は、曇りで明るさが安定している時に測定するのがベストですが、今回は晴れたり曇ったりで雲の動きが激しく、明るさの変化が大きい状況でした。また、測定の際に照度計に太陽の光が直接当たると正確な相対照度が測定できないため、直射日光が照度計のセンサー部分に直接当たらないようにして測定を行いました。測定した高さは約1メートル、調査時間は10:10～10:40でした。

測定箇所は、巨木林植生保護柵内（以下、柵内）、千年広場、コナラ更新林の苗畑跡地、ヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地、ナラ枯れ被害地（枯死したコナラを伐採した箇所）の6地点です。柵内については4か所で測定しその平均値としました。何も障害物がない対照地は吊り橋の上とし、各地点で5回測定を行い、その平均値をその地点の相対照度としました。

表1に各調査地点（柵内は平均値）の相対照度と、その経年変化を示しました。落葉期の調査は2019年以來久しぶりの調査です。今回、相対照度が最も高かったのはコナラ更新林ヒメコマツ植栽地で71.7%、次に高かったのは、コナラ更新林の苗畑51.3%で、ナラ枯れ被害地45.9%、千年広場中央43.1%と続き、巨木林柵内と岬ヒメコマツ植栽地は25.0%、22.8%でした。岬ヒメコマツ植栽地は、相対照度の変動が大きく2025年着葉期



照度計とトランシーバを準備

よりも低い値でしたが、他の地点はいずれも落葉により高くなっていました。特に、巨木林柵内は着葉期の10倍とその変化が大きく落葉の影響が大きいようです。森林内の明るさの変化を把握するため、今後も引き続き調査を継続していく予定です。(福島)

表-1 島内6地点の相対照度の変化

測定箇所	着葉期	着葉期	着葉期	落葉期	落葉期	落葉期
	2023.7.17	2024.8.18	2025.8.17	2018.2.18	2019.2.17	2026.2.15
千年広場中央	28.8	30.5	20.4	38.5	42.4	43.1
コナラ更新林の苗畑	21.2	4.1	16.8	38.5	56.4	51.3
コナラ更新林ヒメコマツ	55.0	46.3	47.1	48.2		71.7
岬ヒメコマツ	38.2	49.3	26.2	68.8	44.0	22.8
巨木林柵内	5.4	4.1	2.5			25.0
ナラ枯れ被害地		25.9	26.9			45.9

巨木林柵内は4地点の平均値

### ○植生保護柵の補修

私たち「ちば千年の森をつくる会」では、千葉県・豊英島の里山環境を未来に残すことを目的に、継続的な保全活動を行っています。近年、周辺地域では二ホンジカの増加に伴う森林への食害が深刻化しており、下層植生の消失や若木の成長阻害が大きな課題となっています。豊英島でも同様の影響が広がっており、健全な里山の再生と維持のためには、植生保護柵の整備を含む地道な管理が欠かせません。こうした背景から、定期的な点検と補修作業を継続してきました。

今回は、この植生保護柵の機能維持を目的に補修作業を実施しました。当日は桜の季節を思わせる穏やかで暖かな陽気の中、60代から80代の会員7名が参加し、安全に注意しながら作業に取り組みました。

まず、柵に倒れ込んでいたコナラの木をチェーンソーで伐採し、玉切りして搬出しました。倒木は柵の破損だけでなく、野生動物の侵入経路にもなり得るため、重要な作業です。続いて、倒れてしまった支柱の立て直しや破れた網の補修を行い、さらに外側には針金を内蔵した補修用ネットを重ね貼りすることで強度を高めました。

作業の中でも、特に苅米さんや鶴沢さんが見せたくれた熟練の技は印象的でした。ロープ一本の扱いからも無駄のない動きと経験に裏打ちされた確実さが伝わり、長年の技術を次世代に継承する意義を改めて感じました。

里山は、人の手が入ってこそ多様な生態系と豊かな景観が維持される場所です。放置すれば荒廃が進み、森の力は失われてしまいます。私たちはこれからも、地域の自然資源を守り育てる活動を継続して参ります。新しく一緒に活動していただける仲間がいればうれしいです。(片野)



## ○穏やかな冬の日差しの中で

照度調査のあと、一人植物観察に向かいました。まずはコショウノキです。千年広場から北方向に 20mほど進んだところにある株で、全体に蕾が付いていました。ここから北東に向かい、吊り橋の下に行ってから岸辺を西側にたどっていきます。スハマソウの花はまだ早いですが青々とした健全な株を確認しました。ミヤマシキミ、ウチダシミヤマシキミにも蕾がありました。途中、ヒメハルゼミ?の抜け殻、林内でもよく目立つ橙色の樹皮をしたサカキ(手首ほどの太さ)、うろこ状に樹皮がはがれて橙色を帯びるアカガシ(胴回りほどの太さ)がありました。西端の禁断の岬には健全な色調の葉をつけたヒカゲツツジ(崖の中腹にぶら下がった状態)、花序の先端に冠毛を付けたキッコウハグマ(開放花または閉鎖花の確認対象)を確認しました。開花していたのはオニシバリ、アセビ、ヤブツバキでした。

林内は、ナラ枯れにより一部のコナラが枯死して全体的に明るくなっています。低木層にあったヒノキをはじめ多くの樹種がここ数年で大きくなり、3mほどだったヒノキは10mを超えるほどになっています。ギャップができてから島は大きく変わってきました。人為的に作ったコナラ伐採地のギャップ以外にもナラ枯れで出来た自然のギャップで大きな変化が起きているようです。ニホンジカの侵入が少なくなっていることも大きな要因と思われる。今日は、ニホンジカではなく一頭のキョンが素早く立ち去っていく後ろ姿をホテイ岬の入口あたりで目撃しました。

ダム湖の水はさらに減っていました。干潟が島を大きく取り囲むような状況で、釣り人が落としたタモ網(2本)や空き缶等のゴミが目につきました。岸辺に打ち上げられるばかりでなく沈んでいるものもあることが良くわかります。暖かい時期ですと干潟はあっという間に草本類が進出して緑に覆われるのですが、今は冬なので裸地のままです。興味を引いたのはヌマガイの貝殻とシュッと立つ柱のような立枯れの木です。干潟から見上げるつり橋はダム湖を象徴する構造物として自然に溶け込んでいます。

穏やかなダム湖で確認できた水鳥は、白黒のキンクロハジロ数羽とホシハジロ1羽です。7、8羽の集団と一緒に行動していました。キンクロハジロは頭部に冠羽があり、金属光沢のある黒で脇が白色であることからオス、ホシハジロは頭部と首が赤褐色であることからオス、結局この数羽の集団はオスだけで行動していたようです。(秋元)



コショウノキ



スハマソウ



ミヤマシキミ



ウチダシミヤマシキミ



ヒメハルゼミ?



アカガシの樹皮



ヒカゲツツジ



キッコウハグマ



アセビ



キンクロハジロ



ホシハジロ



立ち枯れの木と吊り橋

## ○房州籠

今年も苅米さんが自家栽培の文旦を大量に差し入れして下さいました。摘果不十分で小粒とご謙遜でしたが、爽やかな甘味があり、家族そろって美味しくいただいています。ご馳走様です。

以前は段ボール箱入りだったと記憶していますが、今年は大き目の背負い籠で運んでこられました。その籠は上部が広口で下方がしぼまっていて、私が子供の頃から見慣れた上総地方の物とは形が違います。この形は以前どこかで見たと記憶をたどると、安房天津の磯で海藻のヒジキを刈って運ぶ時の籠と似ています。古い写真があった筈と思いましたが、データを誤って削除してしまったのか自分のファイルが空だったのでインターネットに公開された写真を引用します。

ヒジキ刈りの時は一時に沢山の籠が必要でも、使わない時の収納スペースを節約するために重ねられるように工夫されているのでしょうか？ いわば紙コップの方式です。私は勝手にこれを房州籠と呼ぶことにします。

今ではプラスチック製の収穫コンテナが幅を利かせていますが、両手で抱えるように持つと前方の足元が見つらいので足場の悪い所では危険です。その点背負い籠は両手が空く上、足元の確認ができて安全です。傾斜地の果樹園や石だらけの磯では背負い籠の方が重宝です。

しかし、工場での大量生産可能なコンテナに比べ熟練職人の手作業を要する竹の籠では価格面で競争力に大差が出ますから竹製品が廃れるは否めません。職人技の継承も気懸かりです。昼食後の休憩時間には縄文人遺跡から発掘された縄文ポシェットの話題にまで広がった房州籠でした。(坂本)



苅米さんの背負い籠



安房の春を告げる総出のヒジキ刈り風景  
[https://sakanadia.jp/torikumi/bousyu\\_hijiki/](https://sakanadia.jp/torikumi/bousyu_hijiki/)

## ○クイズ 私は誰でしょう？



答えは便りのどこかにあります

## 〇トビの古巣

トビが営巣する時期ですから、昨年同様の繁殖を期待して例の古巣を覗きました。残念ながら新しい巣材の運び込みは見当たりません。この時期に手入れがされていない様では期待薄です。

豊英湖周辺のトビの生息数は一時に比べればかなり減少しています。競技としてのヘラブナ釣りが盛んだった頃は計量時まで水中に浸した魚籠に詰め込まれて、瀕死状態になった魚が大量に放流されたので、トビも餌に不自由しなかったのです。(坂本)



## 〇キョンを目撃！

センサーカメラのデータ回収をしている時、カサカサと音がしたので目を向けると、近くをキョンが1頭通り過ぎていきました。こちらにはまったく気づいていないようでした。秋元さんが目撃した個体と同じかもしれません。最近、センサーカメラにも毎日のように撮影されていることから、キョンは豊英島の主(ヌシ)と言っても良いのかもしれませんが。(福島)

## 〇新入会員の紹介

木村藍さんが入会されました。きのこ観察会に参加してきのこのことを学びたいとのこと。自己紹介の文をこちらに転載します。

はじめまして。

いすみ市にあります、五氣里(itsukiri)という宿泊施設で料理長を務めております木村藍と申します。

千葉県食材を使った調理をしており、自然のことをもっと学びたいと思っていたなか、福島さんとお話しさせてもらう機会をいただき、このたび、ちば千年の森をつくる会に入会させていただくことになりました。

3月の会は予定が合わず参加できないのですが、4月からぜひ一緒させていただけたらと思っています。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

五氣里 木村 藍

## 〇次回の定例活動は3月15日(日)です。

ニホンジカ生息状況調査、危険木伐採を予定しています。

ご参加をよろしくお願いいたします。

参加の際は、ダニ対策とヘルメット着用を忘れずに。

**体験参加大歓迎です！**

**集合場所が、房総クロスヴィレッジに変更になりましたのでご注意ください。**

<https://maps.app.goo.gl/hFKVg4mXncQZJuyU6>

(35.218558228172604, 140.02542152712238)

以前の集合場所から豊英島方向に進み国道から左に入ったところ。集合は9:30です。お間違いないように！



房総クロスヴィレッジ(旧三島小学校)

# セブン-イレブン記念財団

この活動は一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受けて実施しています